

レピュテーション・マネジメントによる競争優位の構築

—地方私立大学の事例を中心に—

杉岡昌男

1. 研究の目標

日本では、18歳人口の減少、大学進学率の頭打ち傾向および地方における大学進学者の流出と大都市への大学進学者の流入が起こっている。このことから、特に地方私立大学の経営環境は今後も悪化が予測され、安定した経営を行うための方策が必要である。このため、差別化による競争優位構築が必要と考えられ、その経営手法として、大学の評判であるユニバーシティ・レピュテーションのマネジメントについての研究を行い、大学の経営に与える影響について検証する。

2. 先行研究

今日の社会情勢を見ると、大学の置かれている環境は非常に厳しく、特に収入の多くを学費収入に依存する私立大学では、18歳人口の減少等によって入学者が減少し、経営破綻する可能性が高くなり現実に学生募集を停止する私立大学も出てきている。この中で、地方においては、大学数が増加しているにもかかわらず、学生数が減少傾向にあるため、経営環境は今後も悪化するものと予測される。このため、地方私立大学が今後生き残っていくためには、差別化による競争優位の構築が必要であり、ブランドのように長期的な時間を要するものではなく、短期的な競争優位の確立が可能なレピュテーションのマネジメントが重要であると考える。ユニバーシティ・レピュテーションについては、大学の学生へのケアが影響を与えているが、その中の要素と考えられる、学生の教育体験の質については有意性がないという研究が海外ではある。

3. 研究内容

本研究では学生の教育体験の質については有意性がないという韓国での研究結果が日本の私立大学でも当てはまるのか、また、学生へのケアについては教育体験の質以外にも様々な要素があると考えられることから、それらの要素がユニバーシティ・レピュテーションへ影響を与えているという仮説についての検証を行う。

4. 研究方法

学生のケアの内容として設定した、学生の教育体験や学生への大学におけるサービス活動、また、学生の他者との交流の場を提供することについて、学生のユニバーシティ・レピュテーションを高めることに影響するかどうか、またこれらが学生の情緒向上へも影響

し、学生の情緒の向上がさらにユニバーシティ・レピュテーションを高めることに影響するかどうか、地方私立大学において検証を行った。この調査については、当該大学において実施したアンケート調査を活用した。分析対象は大学に在籍する3年次生であり、2009年3月～4月に実施し、対象人数は1,237名で、このうち1,146名から回答を得ている。この調査を元に、因果関係の検証を行った。

5. 結果および考察

検証の結果①学生の教育体験はユニバーシティ・レピュテーションへ影響を与えていない、②学生へのサービスはユニバーシティ・レピュテーションへの影響を与えている、③学生の多様な交流はユニバーシティ・レピュテーションへ影響を与えている、④学生の教育体験は学生の大学への情緒へ影響を与えている、⑤学生へのサービスは学生の大学への情緒へ影響を与えている、⑥学生の多様な交流は学生の大学への情緒へ影響を与えていない、ということが判明した。学生の教育体験がユニバーシティ・レピュテーションへ影響を与えないことについては、韓国だけでなく日本においてもこのことが確認されることとなり、韓国における1大学での結論であったという課題に対し、本研究によって複数の国および大学で同様の結論が導き出されたこととなった。以上のことから、レピュテーション・マネジメントによる競争優位の構築という観点から言えば、特に学生に対するサービスを向上させ、迅速に競争優位を構築していく中で、教育の質的向上を図ることが地方私立大学の行うべき活動であると考えられる。レピュテーションによる競争優位の構築は日本の地方私立大学において効果があるとの結論に至った。

6. 今後の課題

今回の研究では、調査対象の地方私立大学は1校のみであり、日本の他の私立大学との比較検討が行われていない。また、実際に学生へのサービスや多様な交流によってユニバーシティ・レピュテーションの向上が図れるかどうかの検証はなされておらず、この解明には大学における経年的な調査およびその解析をしていく必要があり、これらの点については今後の研究課題としたい。